

経営者が語る
「経営の転機」
No.154

パッケージサービスと施工クオリティ 防災関連工事なら、お任せください

東報防災工業株式会社（代表取締役）**松村敏章**



防災機器トップメーカーの代理店として

自動火災報知機など防災設備の販売、設置工事

防犯など関連設備工事もパッケージで受け、躍進中

昭和43年開業、 半世紀超の歴史

当社は昭和43年、防災設備工事大手を卒業した同僚たち、数名を中心に立ち上げられました。

防災機器トップメーカーの代理店として、自動火災報知機など消防設備類の設置工事を主に手がけ、名古屋圏市場を中心に実績を積み重ねていきます。やがて、防犯機器やイン

ターホンなど弱电設備工事分野へも進出。さらには消防設備類の保守点検サービスにも乗り出すなど事業の枠を広げつつ、成長路線へと着実に歩んでいきます。

私が入社した昭和63年時点において、今日へとつながる事業の骨格部分はすでに、固められていたように思えます。

防災関連工事を

トータルに手がける

いま申し上げた事業内容に関して、もう少し詳しく説明しましょう。

まずは消防設備工事です。火災によつて発生する熱や煙、炎を感知し、当該建物の管理者や在籍者へ知らせる自動火災報知設備。火災発生を所轄消防署などへワンタッチで伝える火災通報装置設備。火災検知の際、

防火戸シャッターを連動させて火災の拡散を防ぐ防火・防排烟設備。さらには消火栓、スプリンクラー、水噴霧装置、泡消火装置といった消火設備類。また誘導灯や避難ロープ、避難タラップ、救助袋などの付帯設備までも幅広く取り扱っています。

次に弱电設備工事です。店舗・事務所・倉庫などで緊急事態が発生した際、館内へ避難を促す放送を自動的に流す放送設備。建物への泥棒や空き巣の侵入を感知器で捉え、通報するとともに、監視カメラ映像をモニターに映し出し、録画媒体にも残す防犯設備。さらには戸建住宅、集合住宅、事務所ビル、カラオケボックス向けのインターホン設備工事などが中心的業務です。

そして保守点検サービス。消火器・消火栓をはじめとした消防設備類の不具合チェックと補修・改善、定期交



換などのご要望にお応えしています。以上のように、防災に関連するさまざまな工分野を横断的、かつトータルに手がけ、パッケージサービスとしてお届けしているのが当社、東報防災工業なのです。サブコンや電気工事会社など発注元にとっては、頼れる存在、頼もしい存在に映っているのではないのでしょうか。

受注好調下で迎えた 経営危機

私が入社した昭和63年当時は、



ちよつど、バブル景気の入り口に差しかつていた頃です。以降、数年にわたつて建設業界全体が大いに沸き立つていきます。その恩恵にもあづかつて、当社の工事受注は好調に推移。現場管理・監督業務に就いていた私に対しても当然ながら、次から次へと仕事が続いてきます。3日間にもわたり、ずっと仕事と向き合つたことも。若かつたからこそ、耐えられたのでしょつ。もつとも今になつてみれば、あの頃の日々が、かけがえない思い出としてよみがえつてきますが…。

現場はとにかく、慌ただしさに追いつてられるような状況でした。その一方で、会社自体は思いもよらぬ苦境に。資金ショート寸前へと追いやられてしまつたのです。結局、仕入先の防災機器メーカーに資金協力を仰ぎつ、凌いでいくことに。平成3年になつてからは、経営者たる社長の座も防災機器メーカー側へ譲ることに。以降、招き入れたトップのもとでの経営時代が続いていきます。

平成時代の始まりは、当社にとつて、経営の転機の始まりだつたのかもれません。

東京支店、立て直しへの取り組み

当社の東京支店は、私の入社数年前の昭和57年に開設されています。名古屋における主要取引先の一社であつた電力系総合設備業社の東京進出に伴い、くつついていくようなかたちで進出に至つた、と聞かされています。その経緯はともかく、支店側には、一社依存に甘んじていたのではダメ！という認識も当然、あつたようです。独自ルートでの取引先開拓をはじめとする策をベースに、業績拡



充安定化に取り組んできました。その東京支店の運営（Ⅱ経営）にピンチが訪れ、私に対して、立て直しの大役が回つてきます。大震災があつたその年、平成23年に支店長赴任。以来、8～9年間にわたつての東京勤務。私にとつて、人生で初めての経営者目線・意識での取り組みとなつたのが、この時期でした。

具体的には、人員の適正化など組織のスリム化を断行。また事業内容そのものに関しても、思い切つた見直しに着手します。まずは従来、力が入られてきた保守点検サービスからあえて撤退することに。名古屋市場では稼ぎ頭の一つなのですが、東京市場では競合過多気味な面もあつて、さほどの利益がもたらされないことから、判断したものです。一方、創業来の中核的事業である消防設備工事、弱電設備工事には、よりいっそう力を入れていくことに。新規取引先の開拓に支店をあげて取り組むなど、懸命に向き合い、一定の成果へと結びつけてきました。

トップ就任、3つの改革断行

東京から名古屋に戻つた私に対し、

先代（もちろん防災機器メーカーの出身です）から、「そろそろプロパーの方へ経営を譲りたいのだが、どうだろう」と打診が寄せられます。東京支店の改革成果を念頭に入れての判断だったのではないかと思います。重責ではあるもの、お引き受けることに。平成30年、第6代目に就任します。

就任早々から3つの改革を打ち出し、実行に移してきました。

一つ目は組織改革です。長きにわたって保たれてきた縦割り組織にメスを入れ、横組みの組織へとチェンジ。役職も基本的に廃止するなど、上下



関係にとらわれることなく、誰もが自分の意見や考え方を主張できるような職場環境づくりを進めてきました。従業員みんなの業務への取り組み姿勢が、非常に積極的になったように感じます。

二つ目は営業改革です。ありきたりなルート営業には決して頼らないお客様と真摯に、かつ徹底的に向き合って情報とニーズを引き出し、仕事に結びつけられるものであれば、取り込んでいく。そんな姿勢が、営業に携わる一人ひとりの間に根づいてきているように思います。

そして三つ目は事業改革です。歴史と伝統のある消防設備工事、弱電設備工事はむろん、今後も社の骨格をなす事業として大切にしていく。だが、それだけに頼り切っていたのでは、新しい未来など望めません。宅地建物取引業や高度管理医療機器取扱といった難関資格を有する従業員たちの特技・特性を活かし、不動産業やAED販売・レンタルなどの新規事業へも、積極的に挑戦していく。そんな考え方を実行に移しています。

改革パワーはきつと、当社に未来へのパワーをもたらしてくれることでしょう。



松村敏章 まつむら としあき

昭和39年生まれ。名古屋市出身。ビジネス系専門学校修了。金融関係および会計事務所勤務を経て、高校生時代にアルバイトでお世話になった電気設備工事業へ。改めて修行を積んだ後、昭和63年、工事発注元でもあった東報防災工業㈱に入社。施工現場の管理・監督業務に携わりつつ、新規取引先開拓など営業活動にも励む。東京支店長を経て名古屋本社へ復帰。平成30年、代表取締役就任

創業 昭和43年
設立 昭和48年
事業内容 消防設備工事、放送・防犯・インターホン設備工事、消防設備保守点検サービス
所在地 〒453-0826 愛知県名古屋市中村区鈍池町1-39-1
電話 052-526-1430
URL <https://www.toho-f.co.jp>
資本金 1000万円
売上高 8.6億円
従業員数 27名